

## 講演会「人口減少社会における地域の創生に向けて」

日時：10月31日(火) 場所：長野市内 参加者：約100名



2016年8月よりスタートした5県1市での地域創生講演会を今回は長野市内にて開催し、中経連会員をはじめ約100名が参加した。開催地を代表して山浦副会長の挨拶の後、名古屋都市センター長で国土審議会会長も務める奥野信宏氏より「地域の創生のために我々は何をすべきか」をテーマにご講演いただいた(奥野氏の講演要旨は本誌2016年10月号に掲載、中経連ホームページからご覧いただけます)。また、信州大学経法学部准教授の武者忠彦氏より、以下のとおりご講演いただいた。次回は2月20日に名古屋市内にて開催する予定であり、最終回となる。



テーマ

### 地域創生のためのまちづくり

講師 信州大学 経法学部応用経済学科 准教授 **武者 忠彦 氏**

プロフィール 1975年生まれ。1997年東京大学理学部卒業。メーカー勤務を経て、2006年東京大学総合文化研究科博士課程修了。同年より信州大学経済学部講師。2008年より現職。専攻は人文地理学、都市政策。



#### 講演要旨

##### まちづくりのパラダイムシフトと「標準的ライフコース」の崩壊

戦後日本の都市モデルは「郊外庭付き一戸建て」志向で標準的ライフコースが形成され、幸福論が共感されてきた。1968年には全国で住宅総数が世帯総数を上回り、1980年代初めまでは都市を設計すれば快適な空間ができるとして「計画的まちづくり」を進めてきたが、近年では人口減少に伴い新設住宅着工戸数は大きく減少している。特に30～34歳の持家世帯率は約50%(1983年)から約30%(2008年)となり、持家に対する価値観は大きく変化し、従来の「標準的ライフコース」は崩壊している。これは設計主義、市場主義にもとづく「計画的まちづくり」が、過度に複雑になり、制御不能になった状態だと言える。

##### 戦術的まちづくり

従来の「計画的まちづくり」は計画者主導で、「ビジョン→計画→設計→施工」と流れるのに対し、「戦術的まちづくり」は利用者主導で、まずは小規模で実施し、反応や問題点を抽出し、ニーズが検証できれば、

連鎖的にエリア拡大・投資誘導・制度化し、コンパクトシティをつくり上げていく流れである。また、利用者ニーズからのボトムアップと専門的職業(不動産、建築、メディア等)のローカルネットワークが有機的につながっていることが特徴で、関係者が一体となっている。事例の一つとして、長野市善光寺門前では民間主導で中心市街地の既存ストックを次々と利活用して都市を再生する「リノベーションまちづくり」が進んでいる。

##### 計画的まちづくりの改訂版の必要性

しかしながら、地方圏のまちづくりは、「戦略的まちづくり」だけでは成立しない。現行の法制度では難しい面もあるが、地方圏のコンテキスト(人口・労働・福祉・交通・余暇等)をベースに、民間(利用者)が共感できるライフスタイルも提供できる持続可能性のある包括的な計画が求められている。これが「計画的まちづくりの改訂版」であり、国の提言である「コンパクト+ネットワーク」のための生活域の再編成につながると考える。

(企画部 加治 貴史)

### 第3回国際委員会

11月10日(金)、国際委員会は平成29年度3回目の委員会を開催、委員長の大島副会長をはじめ34名が参加した。



「中部地域の企業にとって、中東は重要なエネルギー資源の供給元であるが、地政学、宗教、民族的に世界で最も複雑で難解な地域である」と大島委員長

が課題意識の共有を図り、講演会を行った。

講演会では丸紅(株)経済研究所シニア・エコノミストの常峰健司氏を講師に迎え、「イラン・サウジアラビアを中心とした中東情勢」をテーマに、中東域内における複雑な隣国関係の構図や、イランの地政学的課題およびサウジアラビアの王位継承問題を中心にご講演いただいた(本誌2月号に講演要旨を掲載予定)。

あわせて、事務局から8月に会員を対象に行った「国際委員会アンケート」の調査結果の報告を行った。講演会と並ぶ本委員会の2本目の活動の柱に関し、「海外からの投資先としての中部地域の魅力向上」「地域産品等の海外輸出・販路拡大」の活動について具体案を次回の委員会にて提案・議論することとなった。

(国際部 平山 りえ)

### 産業・技術委員会 研究施設見学会

11月15日(水)、産業・技術委員会は研究施設見学会を自然科学研究機構 岡崎にて開催、27名が参加した。

自然科学研究機構を構成する5研究施設のうち、岡崎には「基礎生物学」「生理学」「分子科学」の3つの研究所がある。昨年ノーベル生理学・医学

賞を受賞された大隅良典氏も1996年から2009年の13年間、基礎生物学研究所に在籍され、ノーベル賞受賞に関わる多くの研究成果を発表している。

見学会では冒頭、基礎生物学、生理学、分子科学の各研究所長より研究所の概要説明を受け、その後3班に分かれて研究現場を見学した。

基礎生物学研究所では、大型スペクトログラフの特有の波長光によって動植物が固有の挙動を示すこと、次世代シーケンサーによってゲノム解析をしている現場を見学した。



生理学研究所では、世界最大級の7テスラ超高磁場MRIシステムによる脳科学解析の説明を受けた後、高解像度のMRI画像によって、手指それぞれの動きが脳画像へ鮮明に反映される状況が映し出された。脳科学は既に「人のこころを解析」できるレベルに達していることを参加者は実感した。

分子科学研究所では、極端紫外光研究施設(UVSOR)にて軟X線を利用した最先端の分子解析に取り組んでいる現場を見学した。2001年ノーベル化学賞を受賞された野依良治氏の「メントール不斉合成」の成果も、1980年に分子科学研究所で不斉水素化特有の触媒を発見したことが決め手になった。現在もポストリチウムイオン電池等の先端研究が当施設で行われている。

参加者アンケート結果では、世界最先端の研究現場を見学でき、ほぼすべての参加者が満足したと答えた。さらに、研究設備利用についても2/3の参加者から今後利用したいとの意向があった。今回を契機に、大学・公設試験場の研究設備の産業利用を有効に推進すべく、連携強化を図っていく。

(産業振興部 黒柳 考司)

### 地域産業活性化委員会および 岐阜地域会員懇談会

11月20日(月)、地域産業活性化委員会および岐阜地域会員懇談会を岐阜市内にて開催、豊田会長、村瀬副会長、竹中副会長をはじめ10名が参加した。

地域産業活性化委員会を村瀬委員長のもと、三重、静岡、長野に次いで4地域目として開催した。地域会員から提議された課題は以下のとおり。

- 高山を中心としてインバウンドの来訪は好調。また県内の各地が、映画の舞台となり“聖地巡礼”ブームが続くことを期待。一方で、受け入れる側として、人手不足と言語対応の課題がある
- 急なインバウンド客の増加により、環境への影響が問題となっており、地域や経済効果に寄与していない観光地もあると聞いている。慎重な観光開発をすべき
- 「地産地消」から“地域で消費するものを地域でつくる”「地消地産」の発想に切り替えるなど、経済を域内で回す努力が必要
- 県内大学出身者を県内に留めることは重要だが、経済が一体化している愛知県等と広域で魅力を高め、Uターンを含め対流・交流を推進することが重要
- 人手不足が顕著。外国人の受け入れ拡大には、多くの課題があるが、中部圏のものづくりを守るためには、外国人の長期雇用についても考えていく必要がある
- 地方ほど、跡取り不在による廃業が多く、事業承継が深刻。オーナーと経営を分離した承継を推進する必要がある
- リニア中央新幹線岐阜県駅の活用について、一番大事なことは多くの人に利用してもらうこと。そのため、瀬戸や豊田等との交通ネットワークの整備が必要



ヤマカ陶料(株) 加藤社長

- 東海環状自動車道西回りの開通が遅れている。地域や産業の活性化のみならず、災害時の迂回道路としても期待されており、愛知県や三重県と協働して早期整備を国に働き掛ける必要がある

今後は、各地域で出された意見・課題等を踏まえて、各委員会での提言等、具体的な施策の実行に向け、活動を展開していく。

引き続き開催した会員懇談会では、税制、イノベーション、人材育成の各委員会の活動状況を事務局から報告し、中経連の今後の活動について課題提起や意見交換を行った。

(岐阜担当 和田 耕一郎)

### 第35回Next30産学フォーラム

11月24日(金)、Next30産学フォーラムは35回目のフォーラムを名城大学 ナゴヤドーム前キャンパスにて開催、31名が参加した。

はじめに、名城大学学術研究支援センター長の原田健一氏より、「近年は、産官学の連携を生み出す様々な事業を展開しており、今後、経済界とも緊密に連携していきたい」と挨拶があった。

次に、愛知県立芸術大学美術学部美術科油画専攻准教授の白河宗利氏による講演、名城大学農学部生物資源学科准教授の塚越啓央氏による講演およびワークショップを行った。

白河氏は、「西洋絵画の秘密 – 巨匠たちはこの世界をどう描き出したのか? –」をテーマに、写真技術が発明される前の画家たちが、人間の目で現実に見ている無数とも言える色の数を、絵具でどのように忠実に再現しようとしてきたのか、その当時に編み出された絵画技法などを紹介した。そして、「著名な絵画や自身が描いた絵画を用いて、正しい技法で描かれた絵画は500年経過しても当時のまま色褪せることなく鑑賞することができる」と述べた。

塚越氏は、「小さなモデル植物が果たした植物科学への大きな貢献」をテーマに、様々な植物の生命活動がシロイヌナズナという植物を用いた分子生物学研究によって紐解かれていることを説明し、さらに、自身が取り組んでいる研究内容などを紹介した。その後、参加者は暗室や塩分などのストレスを与えられた実物のシロイヌナズナを見ながら、講師や参加者同士で意見交換を行い、植物の耐性や環境条件による生育の違いについて理解を深めた。



塚越氏と参加者の意見交換の様子

その後の懇親会では、参加者が講師を囲み、それぞれの研究について意見を交わすなど、一層の親睦を図った。

(イノベーション推進部 水田 晴久)

### 第1回エネルギー・環境委員会

11月28日(火)、エネルギー・環境委員会は平成29年度1回目の委員会を開催、委員長の水野副会長をはじめ47名が参加した。

本委員会は、社会・経済の安定や発展を支える重要な政策課題である「エネルギー」、産業活動と地球環境の調和を考える「環境保全」、この2つの分野において、中部圏発展のための調査・研究を行い、必要に応じて意見・提言活動を展開している。

委員会の第1部では、経済産業省の長期地球温暖化対策プラットフォーム「海外展開戦略タスクフォース」の参加メンバーである、三井物産戦略研究所シニア研究フェローの本郷尚氏を講師

に迎え、「低炭素社会の実現に向けた世界の潮流について」をテーマにご講演いただいた。本郷氏は2017年11月にドイツで開催されたCOP23に参加されており、温室効果ガス削減問題をめぐる世界の最新情報についてご紹介いただいた。



ご講演いただいた本郷氏

第2部では、専門委員会で取りまとめた「エネルギー基本計画の見直しに対する意見書～エネルギーの安定・安価な供給体制の確保と利用分野でのイノベーション推進を～」について審議を行い、了承された。

同意見書は、今回の委員会の結果を踏まえ、12月度正・副会長会および総合政策会議に上程することとした。

(産業振興部 鬼頭 大介)

### 第2回経済委員会

11月29日(水)、経済委員会は平成29年度2回目の委員会を開催、委員長の水野副会長をはじめ22名が参加した。

水野委員長からの挨拶の後、平成29年度のテーマ「中部圏5.0の提唱」について、検討状況の中間報告と審議を行った。まず、中村専門委員長((株)三菱東京UFJ銀行経営企画部経済調査室上席調査役)および事務局から、アンケートの調



査結果の概要および提言書骨子案の説明を行った。

その後審議に移り、委員からは、「今年度の提言書は、広域連携・地域づくり委員会で進めている、

2050年頃の社会の姿を踏まえた中部圏のビジョン策定にもつながっていくのではないか」「ESG投資を意識した記述を加えてみてはどうか」「政府の提唱



するSociety5.0に対して受け身の姿勢ではなく、『我々中部圏はこう進む』というメッセージ性を強めてはどうか』など、建設的な意見が活発に提示された。

今後、これらの意見を踏まえて検討を進め、1月29日開催予定の第3回経済委員会に提言書案を上程する運びである。

(調査部 井川 佳明)

中経連

# ダイジェスト

## 駐日米国大使とのビジネス懇談会



11月20日(月)、中経連と名古屋商工会議所の合同で「ハガティ駐日米国大使と中部経済界とのビジネス懇談会」を名古屋市内にて開催した。中経連から豊田会長をはじめ6名、名商から藤森副会頭をはじめ4名が参加した。

豊田会長は中部経済界を代表して、「中部圏はものづくりの中心地で、とりわけ輸送用機器、航空宇宙、工作機械、セラミックス、電気機器等の産業が集積している。今回の参加者を含め、中部圏の企業は米国へ多数進出し、長年にわたり両国の強固な経済関係に貢献している。米国は我々にとっても重要なパートナーであるので、貴国の施設・人

への投資等を通して、誇りを持って社会貢献を行い、良き市民となるべく努力している。今回の大使の訪問をきっかけに、米国と中部圏双方の産業のさらなる発展のため、良好な関係を継続して行きたい」と述べた。

ハガティ大使は、「本日参加の全社が米国内で事業展開を行っており、数十億ドル規模の投資額となっていることを大変高く評価している。現政権では、国境を越えたビジネスを容易



にする規制改革や法人税改革を推進しており、中部圏を含む日本の米国進出企業にとって、これからの米国への投資は大きな収益をもたらすことが期待されている。また、投資促進において、州政府の活動が重要となっており、各州知事には来日して、自州のメリットをアピールするように勧めている。今後とも米国との一層の経済交流を図っていただきたい」と発言された。

続いて、参加者より自社の紹介と米国での事業の説明の後、意見交換を行った。

(国際部 平山 りえ)